

本調査研究の要約

平成15年4月1日から年次進行により実施される，高等学校学習指導要領の中では，「書くことを主とする指導には30単位時間程度を配当するものとし，計画的に指導を行うこと」と記されている。指導者側には指導に手間がかかる，評価が難しい等の問題が根底にあるが，この状況を打破していかないかぎり，「思考力を伸ばし言語感覚を磨き，進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる」ことはできない。

このような状況を踏まえて，生徒の小論文に対する実態を踏まえつつ，ワークシートを導入して，実際の書く場を学習の中に段階的かつ効果的に取り入れる研究を行うこととした。

キーワード

「ワークシート」 「段階的」

1 主題設定の理由

文化庁が16歳以上の男女を対象に行った『平成13年度国語に関する世論調査』の中に，日本人の日本語能力が低下しているという意見に対して，どう思うかを尋ねた項目があった。それによると，「読む力」「書く力」「話す力」「聞く力」の4分野の日本語能力において，低下していると思う割合が，

「読む力」... 68.8%

「書く力」... 88.1%

「話す力」... 59.2%

「聞く力」... 57.0%

という結果である。4分野の日本語能力のうち，特に「書く力」が低下していると思う人が約9割である。

高校の先生方から，生徒の「ことばの力」が低下してきたということを耳にし始めてから久しいが，上記の結果は高校生の日本語能力の傾向を示す一つの証左であると言えると思う。平成15年4月1日から，年次進行により段階的に実施される高等学校学習指導要領の中では，「書くことを主とする指導には30単位時間程度を配当するものとし，計画的に指導を行うこと。」と明記されている。これまで以上に「書くこと」の重要性が指摘されたことになる。さらに，大学入試において，小論文を出題する大学が増加しているが，各大学には客観式テストでは測ることのできない，思考力，論理的な文章展開力をみようとの意図がある。

さて，平成14年度宮崎県立高等学校入学者選抜学力検査における，表現力をみる問題の正答率は，大問1の問六17.8%，大問2の問四50.1%，大問3の問六56.0%である。表現力をみる問題の正答率の平均は，

11年度..... 55.4%

12年度..... 56.0%

13年度.....58.9%

14年度.....41.3%

である。解答例を分析すると、いずれも、設問が求めているものを的確に表現する力が不足しているために、誤答となっている傾向が顕著であった。自分の考えを十分に伝える力が不足しているのである。

しかし、このような状況にありながら「書く」指導に対する教える側の姿勢が整ってきた、とはなかなか言い難い状況にある。指導に手間がかかる、評価が難しい等の問題が根底にあつてのことではあるが、この状況を打破していかないかぎり、「思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる」ことはできない。

平成13年度に研究協力学校で行ったアンケート（「実践の成果をみるための小論文アンケートの実施」で詳述）によると、小論文について知らない生徒、書くべき状況の耕しを行っていない生徒が多い。その一方、小論文について興味・関心をもっている生徒もまた多い。

そこで、生徒の小論文に対する実態を踏まえつつ、ワークシートを導入して、実際的な書く場を学習の中に段階的かつ効果的に取り入れる研究を行うことにした。

2 研究の仮説

- ・ 書くための素材を豊かにする授業
- ・ 文章の論理構造を図式化する作業などを取り入れた、的確に内容をとらえさせる授業を、ワークシートを使いながら段階的に行えば、指導に手間がかかる、評価が難しい等の問題の解決が図られ、表現力を高める小論文指導ができるのではないかと考える。

3 研究の実際

(1) 研究の経過

月	研究内容
4	教育課程実施状況調査の分析，研究領域の決定
5	研究計画の作成
6	研究内容の具体的準備
7	調査研究（ワークシート資料の収集）
8	調査研究（ワークシート資料の収集）
9	調査研究（ワークシートの検討）
10	調査研究（検証授業の実施）
11	調査研究（検証授業の実施）
12	調査研究（実態調査の実施）
1	研究結果のまとめ
2	研究報告書の作成
3	研究報告書の完成

(2) 研究の内容

ア 検証授業の内容

生徒が小論文に抵抗感を覚えることなく、授業の中で段階的かつ効果的に小論文指導を行うため、具体的には、入門編、完成篇と二種類に分けたワークシートを使用した。

この二種類のワークシートのうち、入門編を使って、次のように2回の検証授業を実施した。なお、このワークシートは、「ナ氏の小論文&総合的な学習の時間」から使用させていただいた。

第2学年1組 国語科指導案

1 単元名 小論文指導

2 目 標

国語教育における小論文指導の在り方を考える。

3 指導観

国語教育における小論文指導の目的として、二つのことをあげておきたい。第一に、生徒が自己の内面と対話しながら思考を深めていく力を付けること、第二に、自分の考えを外部に対して的確に発信しうる力を付けるということである。これらを念頭に置いて、話すこと・聞くこと、読むこと、書くことを通し、「国語の力」を生徒が身に付けられるように、日々の指導を行っていきたいと考える。

生徒の現状として、小論文入試に臨むことによって初めて自分や社会の問題と向きあい、深く考える機会を得た生徒も少なくない。また入試にとどまらず、物事を考えそれを文章に表す力は、あらゆる場面で必要とされている。社会事象に対する広い視野と問題意識を持ち、それを適切に述べる表現力を身に付けさせるような小論文指導の在り方について考えたい。

今回の授業では、小論文について漠然とした知識しか持たない生徒に対して、基礎的理解を深めさせることを試みた。まず、第一時間目の授業で小論文の枠組みをおさえる。二時間目で、小論文の一般的な書き方について、ワークシートを使いながら生徒におさえさせていきたい。

4 学習の計画

教材名	学習目標	学習内容	時間
ワークシート1	小論文への理解を深める。	ワークシートでの作業	1時間
ワークシート2	小論文の書き方を学ぶ。	ワークシートでの作業	1時間

5 本時の目標

小論文への理解を深める。

文章の要旨を的確に抜き出すことができる。

6 指導過程 1

段階	学習内容及び主な学習活動	教師の手だて	備考
導入	1 小論文とは何かを確認する。 作文との違いを確認する。	「作文」と比較して考えさせる。 近くの生徒と話し合わせる。 何人かの生徒に発表させる。	ワークシート
展開	2 STEP 1をまとめる。 小論文とは「意見」とその「理由」づけが必要なことを確認する。	文章の要旨に線を引かせる。 設問に答えさせる。 指名し、発表させる。	
	3 STEP 2をまとめる。 小論文の構成について確認する。	文章の設問に答えさせる。 指名し、発表させる。 文章の要旨に線を引かせる。	
	4 STEP 3をまとめる。 出題傾向を確認する。	出題傾向を考えさせる。	
	5 STEP 4をまとめる。 評価について確認する。	文章の要旨に線を引かせる。 指名し、発表させる。	
終末	6 問題意識について考える。 現代社会の様々な課題について日頃から問題意識を持つことが必要なことを確認する。	事前に「戦争で平和が作れるか」との問題について、自分の立場を明確にして書かせておく。 3種類の新聞記事を読み、自分の「意見」には明確な「理由」付けが行われていたか確認させる。	
	7 次時の予告 書く段階に入ることを指示し、授業の感想を書かせる。	授業の感想を記させる。	

第1回目で使ったワークシートでは、

- ・ 小論文の定義
- ・ 効果的な構成
- ・ 評価の視点

が把握できるよう工夫した。

ワークシート 小論文入門編 1

STEP 1 小論文とは何か？

アメリカでは早くから「essay」が試験科目として採用され、その効果が高く評価されていました。それは「essay」によって、特定のテーマに対する受験者の「考え」や「考え方」を、他の試験方法よりも正確に調べることができるからです。これが日本に導入されたとき、「essay」の訳語として存在した「小論」ではなく、新たに「小論文」と名付けられたようです。小論文の語源が「essay」であることから、これが散文や随筆・随想などと混同される原因となりました。この結果、小論文は自由作文のようなものから、本格的な学術論文に近いものまで、さまざまな形式で出題されるようになったのです。

英語でいう「essay」は、日本語に置き換えると「随筆」などよりもむしろ「評論」に近いものだと言えます。それは欧米型の言語による「随筆(essay)」が著者の「意見」と「理由」から成り立っているのがふつうだからです。形式は学術論文と基本的に同じです。

ところが、日本語による「随筆(エッセイ)」は、心情表現を中心に据えたものが多く、欧米とは逆に「理由」が添えられないのがふつうです。つまり、英語の「essay」と日本語の「エッセイ」とでは、「理由の提示が必要か否か」という根本において非常に大きな違いがあります。この点から考えると、小論文は「作文や感想文ではなく、より本格的な論文に近いものだ」と言えます。だから「小論文 = 意見 + 理由」と考えればよいのです。

STEP 2 小論文の構成は？

漢詩の構成・展開の型の一つである「起承転結」は、ものごとを順序立てて展開してゆくには非常に効果的なので、小説をはじめとして多くの文章がこの構成をとっています。

しかし、小論文は「論文と同じ」であることが求められます。したがって、小論文は「私は～と思う。なぜならば、...。」という「意見 + 理由」の構成をとる必要があります。

小論文を「論文」と同じ形式で作成するならば、論文のように「序論・本論・結論」という三部構成にすべきではないか？ という疑問が湧くのは当然です。しかし「小論文」では、ほとんどの場合、字数が制限されています。このため、「序論と結論を“意見”、本論を“理由”として論ずる方が、簡潔でしかも内容の充実した論述を展開しやすくなります。小論文は、できるだけ単純な構造、より内容の濃い論述が求められます。

STEP 3 どんな問題が出されるの？

小論文では「『権利と義務』について自由に述べよ」といった作文のようなものから、「ニワトリのタマゴは、なぜ、あのような形をしているのだろうか」といったものまで多種多様な問題が出されます。その中でも多いのが「文章資料型」です。ですから、「次の文章を読み、筆者が主張していることに対して、あなたはどうか考えるか。理由を含めて 字以内で述べなさい。」を基本形として考えてよいでしょう。

扱われる題材の多くは「教育」「高齢」「環境」「情報」「国際」の5分野に関係したものとなっています。これらの分野から、現代社会の諸問題がテーマとして提示され、そこから「根本的な問題点を探し出し、あなたの意見と、その理由を示す」ことが求められるわけです。

その他、筆者の主張の要約が課されたり、解答が数百字におよぶ記述式の学科試験だったり、パズルを解き明かす問題も出題されています。

STEP 4 どんなことが評価の対象となるの？

小論文では、論述の内容や結論を通して「興味や好奇心」を調べることができます。また、与えられたテーマに対して受験者がどのような論点を見い出すかから「読み取る能力」を、それをどのように論理的に展開するかから「考える能力」を、さらに、どのように記述しているかから「表現する能力」も評価することができます。

つまり、これまでの学力試験では判定の難しかった性格や潜在的な能力など、あなたの「総合的な知的能力」を評価できるのです。

- ・ 興味や好奇心、専門への適性 …… 知識の幅広さや深さ
- ・ 総合的な知的能力
 - 読み取る能力 …… 読解力、理解力、分析力
 - 考える能力 …… 思考力、想像力、考察力
 - 表現する能力 …… 作文力

第2回目では、第1回目を受けて、より実践的な内容のワークシートを次のような構成をとって考えた。

- ・ 正しく「読む」ために大切なこと
- ・ 正しく「考える」ための手立て
- ・ 正しく「書く」ために大切なこと
- ・ 字数に対する意識づけ

1 本時の目標

小論文の書き方を学ぶ。

課題文を的確に読解し，設問の条件を理解した文章が書ける。

2 指導過程 2

段階	学習内容及び主な学習活動	教師の手だて	備考
導入	1 小論文とは何かを確認する。 前時で学んだことを確認する。	小論文には「理由」が必要なことを確認する。 近くの生徒と話し合わせる。 何人かの生徒に発表させる。	ワークシート
展開	2 STEP 1をまとめる。 文章を的確に読解し，設問に答える。	文章の要旨に線を引かせる。 指名し，発表させる。	コメント表
	3 STEP 2をまとめる。 根拠のある説明ができる。	話し合わせ，指名し発表させる。	
	4 STEP 3をよむ。 「書く」ための基礎的な事項を確認する。	文章の要旨に線を引かせる。 指名し，音読させる。	
	5 STEP 4をまとめる。 要点を押さえた文章を作成できるか確認する。	設問に答えさせる。 指名し，発表させる。	
終末	6 STEP 5に答える。 課題文を読み，ワークシートの形式に沿って解答することで小論文の書き方を理解する。	ワークシートにそって記させる。 次回の授業で提出させる。	
	7 次時の予告 提出された文章をもとに相互添削することを確認する。		

第2回目で使ったワークシートは，次のものである。

ワークシート 小論文入門編 2

STEP 1 実際に練習してみよう 正しく「読む」

次の文章を読み、あとの設問に答えなさい。

人文系博物館というのは、人類そのものや人類の歴史、文化に関する博物館である。一般的にいえば、民族博物館、歴史・民族博物館、考古学博物館、文化博物館、産業博物館、美術館、文学館などである。建築物を集めた野外博物館、彫刻を野外に展示した美術館、さらに古い城や城址、家屋、住居跡などを現地保存したのもそうである。

日本の人文系博物館にもいろいろ変わったものがみられる。たとえば、紙の博物館、演劇の博物館、野球の博物館、はきものの博物館、大工道具の博物館、酒の博物館、おもちゃの博物館、コーヒーの博物館、爪楊枝の博物館、太鼓の博物館など、多種多様である。

自然系博物館というのは、自然科学の分野を主題とする博物館である。自然史(誌)博物館、科学館、プラネタリウム、海洋博物館、そして動物園、水族館、植物園などを含んでいる。自然保護区、国立公園や自然公園のビジター・センターなども当然含まれる。

ここにもいろいろなものがある。たとえば、埋没林の博物館、火山の博物館、サンゴの博物館、琥珀の博物館、化石の博物館、昆虫の博物館、氷の博物館、船の博物館、交通の博物館、自動車の博物館、機関車の博物館、くすりの博物館など、挙げれば切りがない。

このように取り扱う専門領域がごく限られて狭いものもあれば、広いものもあるし、専門領域がいくつにもまたがっているものもある。規模の大きいもの、小さいものといろいろである。

ふつう、人文、自然の両分野にまたがっているものは総合博物館といわれている。県立博物館や郷土博物館といわれるものにこれが多い。これらも大小さまざまであるが、人文、自然の二つの分野がただ併存するだけで総合というのには、いささか疑問がある。人と自然との関わりの中でその歴史や文化が追求されてこそ、総合の名にふさわしいのではなかろうか。

(千地万造『博物館の楽しみ方』)

設問 次の文 A ~ E は、下の a ~ e のいずれに該当するかを答えなさい。

- A . () 国立公園や自然公園のビジター・センターは自然系博物館である。
B . () 県立博物館や郷土博物館は総合博物館である。
C . () 古い城など歴史的建造物の内部に設置されていれば、自然史博物館であっても総合博物館としてよい。
D . () 博物館の種類は都道府県の教育委員会によって指定される。
E . () 総合博物館は取り扱う専門領域が広い。

- a . 文章の論旨にすべて沿っている。
b . 文章の論旨に一部だけ沿っている。

- c . 文章では言及されていないが，論旨から推定できる。
- d . 文章では言及されていないし，論旨からも推定できない。
- e . 文章からは判断できない。

STEP 2 正しく「考える」を試してみよう

次の文章について，適切な説明を記しなさい。

正直者の太郎が1本120円の鉛筆を2本買って，おつりを300円もらった。

STEP 3 正しく「書く」ための基礎

考えがまとまるまでは「論述」を始めない

公共施設建設などの大きな工事現場には，たいてい「完成予想図」が掲げられています。私たちはそれを見て「ふーん，このようなものが建つんだな」と漠然と納得するわけです。しかし，この完成予想図をもとに工事が進められているわけではないことは当然です。工事は詳細な設計図に基づいて進められているはずです。

これまでに作文や感想文を作成したとき，思考を展開させながら書き進めたら，「最初に言おうとしていたことを，少ししか述べていない」と感じたことはないでしょうか。論述内容を漠然とイメージしたまま，詳細な下書きなしに書き始めるとこういったことが起こってしまうのです。

「感想」を拡張しても，小論文にはならない

小論文における「意見」は，その「理由」とともに，十分に考え尽くされたうえでの「意見」です。第一印象で「感じたこと」とは質的に大きな隔たりがあります。単なる「感想」からは小論文は生まれません。

第一印象から生じた「意見」は，まだ「感想」の域にある

また，途中で論述全体の方向性を見失わないよう，十分に考え尽くされた「意見」「理由」をもとに書き始めることが大切です。

書き始めてからは，絶対に意見や理由を変えない

必ず「下書きメモ」を作成すること

小論文における下書きは，論述を構成するための「設計図」だと考えてください。ですから，下書きが詳細であればあるほど，小論文の完成度は高くなります。詳細な下書きを作成するためには，そのもととなる「下書きメモ」が必要です。このメモを組み合わせれば，小論文の基本的な骨格が完成するはずですよ。

STEP 4 意外と大切な「字数調整」のテクニック

文章作成で最も手間がかかるのが，完成した文章の一部だけを修正することです。この対処法についてのトレーニングは非常に役立ちます。

たとえば，ヒマワリの説明で「黄色」を入れ忘れたとします。

「夏，直径20センチメートルにも達する大きな花を咲かせる」

「夏，直径20センチメートルもの大きな黄色い花を咲かせる」

こんな感じで，同じ字数に調整すればよいわけです。それでは，実際に練習してみましょう。

次の文 A ~ G の波線部分を，20 字ちょうどに書き換えなさい。

A．学校とは体系的な課程のもとに，教師が学生・生徒・児童を継続的に教育する機関・施設。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

B．小学校とは，義務教育として満六歳から十二歳までの六年間，初等普通教育をほどこす学校のこと。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

C．中学校とは，小学校を卒業した者に，さらに義務教育を施すための学校。修業年限は三年。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

D．高校とは「高等学校」の略。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

E．高等学校とは，中学校を卒業した者に高等普通教育，または専門教育を行う学校。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

F．大学とは学校教育法で規定された，学術研究・教育の最高機関である学校。最高学府。卒業すると学士の学位を得る。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

G．大学院とは，大学卒業者がさらに深い研究をするための機関。修士または博士の学位を得て卒業する。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

STEP 5 実際を書いてみよう

次の資料は「幼稚園教育要領，小・中・高等学校学習指導要領 改訂のポイント」と題された資料の一部である。これをもとに，質問および設問に答えなさい。

- 今回の改訂の基本的なねらい -

平成 10 年 7 月の教育課程審議会答申を受けて，完全学校週 5 日制の下で，「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し，幼児児童生徒に自ら学び自ら考える〔生きる力〕を育成。特に，次の点を重視。

- 1 豊かな人間性や社会性，国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること。
- ・ 幼稚園や小学校低学年では，基本的な生活習慣や善悪の判断などの指導を徹底。

また、ボランティア活動の重視。

- ・ 小学校では人物・文化遺産中心の歴史学習の徹底，中学校では歴史の大きな流れをつかむことを重視する歴史学習に改善。我が国の国土や歴史に対する理解と愛情，国際協調の精神など国際社会に主体的に生きる日本人としての資質の育成を重視。
- ・ 中学校及び高等学校外国語科の必修化と聞く話す教育の重視 など。

2 自ら学び，自ら考える力を育成すること。

- ・ 各教科及び「総合的な学習の時間」で体験的な学習，問題解決的な学習の充実。
- ・ 各教科等で知的好奇心や探究心，論理的な思考力や表現力の育成を重視。
- ・ コンピュータ等の情報手段の活用を一層推進。中学校技術・家庭科で情報に関する内容を必修化，高等学校で教科「情報」を必修化 など。

3 ゆとりのある教育活動を展開する中で，基礎・基本の確実な定着を図り，個性を生かす教育を充実すること。

- ・ 年間授業時数は，現行より週当たり2単位時間削減。
- ・ 教育内容を授業時数の縮減以上に厳選し，ゆとりの中で基礎的・基本的な内容を繰り返し学習し，その確実な定着を図る。
- ・ 中・高等学校における選択学習の幅を一層拡大。
- ・ 高等学校では，卒業に必要な修得総単位数を80単位から74単位に縮減，必修教科・科目の最低合計単位数を38単位（普通科）から31単位に縮減など。

4 各学校が創意工夫を生かし特色ある教育，特色ある学校づくりを進めること。

- ・ 「総合的な学習の時間」を創設し，各学校が創意工夫を生かした教育活動を展開。
- ・ 各学校が創意工夫を生かした時間割編成ができるよう，授業の1単位時間や授業時数の運用の弾力化。
- ・ 教科の特質に応じ目標や内容を複数学年まとめるなど基準の大綱化。
- ・ 高等学校における学校設定教科・科目の導入 など。

質問1 文中の1～4のうち，あなたは「どれを最も重視すべきだ」と思いますか。

質問2 質問1で選んだ項目を「なぜ，重視すべきと思うか」の理由を考えなさい。ただし，理由は他の項目との比較はなく，その項目についてのみ単独で考えること。

質問3 質問2で考えた理由の正当性を証明するために、できるだけ一般的で具体的なことがらを、少なくとも一つ示しなさい。二つ以上示すことができた場合には、そのうちどれが最も一般的かつ具体的であるかを判断し、最適なものを一つ選びなさい。

質問4 質問1～3に対する答えを、「私は〔質問1の答え〕を重視すべきだと思う。それは、〔質問2の答え〕だからである。〔質問3の答え〕という一般的で具体的な例があることから、〔質問1の答え〕を重視すべきだと言えるのである。」という形式でまとめなさい。

イ 実践の成果をみるための小論文アンケートの実施

今回、2時間の授業前に、研究協力学校の2年生41名に小論文に関するアンケートを行った。

小論文アンケート1		平成14年10月実施		
質 問	はい	いいえ	どちらともいえない	
1 小論文を今までに書いたことがありますか。	11	28	2	
2 作文を書くことは好きですか。	9	24	8	
3 意見文と作文の違いについて理解していますか。	10	21	10	
4 小論文の書き方を知りたいと思いますか。	38	1	2	
5 新聞は毎日読みますか。	12	22	7	
6 テレビのニュースを毎日見ますか。	34	4	3	
7 次の項目のうち興味のあるものに を付けてください(複数回答可)				
ア 国際化(19)	イ 少子高齢化(5)	ウ 高度情報化(6)		
エ 環境問題(17)	オ 教育問題(16)	カ 医療問題(11)		
キ 福祉問題(9)	ク 政治・法律(12)	ケ 科学技術(10)		
コ 言語・文化(12)				

質問 あなたが小論文について知っていることを自由に書いてください。

入試に必要。(11)

設定されたテーマに対し、自分の意見とその根拠を筋道立てて述べる。(10)

起承転結や序論本論結論などで構成する文章。(3)

よく分からない、難しい。(5)

質問 あなたの文章表現力を付けるために必要なことはどのようなことですか。

読書量を増やす。(2 1)
 読書傾向を多様化(小説よりも評論など)させる。(1 1)
 語彙力を増やす。(1 0)
 社会常識を身につける。(6)
 自分の価値観を持ち(多様化し),社会に対する問題意識を持つ。(2)
 講演会に参加したり,目上の人と接する機会を多くする。(1)
 簡潔な文章表現を心掛ける。(1)

質問 あなたが文章を書くときに苦手とすることはどのようなことですか

書くこと(話題や知識)がない。(7)
 構成が分からない(意見と理由の続け方が分からない)。(4)
 うまく言葉で表現できない,文章が冗長になる。(3)
 要約ができない。(2)
 接続詞の使い方が分からない。(2)

平成13年5月にも小論文に関する同様のアンケートを,研究協力学校の1年生40名に行っていた。次に示すのは,そのときのものである。なお,対象生徒は同一ではない。

		はい	いいえ	どちらとも言えない
1	小論文を今までに書いたことがありますか。	1 0	2 5	5
2	作文を書くことは好きですか。	1 5	1 8	7
3	意見文を書くことは好きですか。	1 3	2 0	7
4	小論文の書き方を知りたいと思いますか。	1 8	1 3	9
5	環境問題に興味がありますか。	2 5	1 0	5
6	国際化に興味がありますか。	2 5	5	1 0
7	少子化・高齢化に興味がありますか。	1 5	1 0	1 0
8	教育問題に興味がありますか。	2 8	6	6
9	高度情報化に興味がありますか。	3 0	9	1
10	医療問題に興味がありますか。	2 0	1 3	7
11	福祉問題に興味がありますか。	1 0	2 0	1 0
12	政治問題に興味がありますか。	1 8	1 8	4
13	小論文に役立つ本を読みますか。	3	3 0	7
14	新聞は毎日読みますか。	1 2	2 0	8
15	テレビのニュースは見ますか。	3 6	2	2
16	あなたが「小論文」について知っていることを自由に書いてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知らない ・ 大学入試で必要 ・ 難しい 		

17	どのようにしたら小論文を書けるようになると思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞や本を読む ・ 優れた文章の表現技術を身に付ける
18	文章を書くときに苦手とすることはどのようなことですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造が分からない ・ 言葉を知らない ・ 書くことがない

昨年度と今年度のアンケートから、先ず、選択肢の項目で共通するものを比較すると、

- ・ 小論文を書いたという意識が、1年生と2年生で差がないこと。
- ・ 作文を好きだと思ふ割合が、2年生で減少していること。
- ・ 小論文の書き方を知りたいと思ふ生徒が、2年生ではほとんどであること。

が目立つ。ここから浮かび上がってくるのは、小論文指導がまだ不十分であること、文章を書くことは避けたいが自分の進路における必要性から小論文には強い関心があることが分かる。また、記述形式の項目では、1年次より自分の状況を細かく書くことができるようになってきていることが分かる。

このように、文章を書くことには抵抗感をもっているが、小論文の書き方を知りたいという意欲をもつ生徒たちに、2時間の検証授業後、改めて次のようなアンケートを実施した。

小論文アンケート 2	(2 年生 1 クラス 4 4 人)
1 戦争で平和が作れると思いますか	はい (3) いいえ (4 1)
2 1のように考えた理由を書いてください	
「はい」と回答	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 力で自分たちの平和を勝ち取った人々がいるから。またそのような前例があったからこそ平和を望むのだと思う。 ・ 望ましい形ではないが、現に日本はアメリカとの戦争をきっかけに今のような平和な国になっているから。 ・ 本当は武力を用いずに平和が作ればよいが、それが無理で、救われるものが多いならば武力を用いても平和が作れると思う。ただし戦争後の様々な活動が大切だと思う。 	
「いいえ」と回答	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦争は結局弱者が被害を受けるだけだ。形あるものは破壊され、命は奪われていくだけだ。力で相手を押さえ込むのが正義などではない。戦争が終わって平和が戻ったというのは表面上だけであって、今でも身体的精神的に苦しんでいる人が多いのが現状だから。(同趣旨多数) ・ 平和とはこの世に生きているすべての人々の「生命の安全を保障する権利」が誰一人欠けることなく守られている世界の状態を指すのであって、誰かを排除して平定しようと言うようなエゴイストのぶつかり合いでは作れないから。 	

3 今回の授業の感想

- ・ 今まで進路関係の本や先輩の話だけでおぼろげにしか頭の中になかった「小論文」というものが、はっきりしてきたのでよかった。(多数)
- ・ 「自分の考え」や「意見」を持つことがまず大切だと思った。(多数)
- ・ 新聞などを読んで知識を広げなければならないと思った。(多数)
- ・ 今までよく理解できなかったが、今日の授業で順を追って考えていったら理解できたので良かった。
- ・ 自分の考えというものが本当に「自分の考え」なのかということを見つめられる授業だった。またそれを相手に伝えることがいかに難しいこと分かった。
- ・ 改めて小論文を書くことの難しさを思い知らされた。考えること、自分の意見を述べることを問うとは、書く方としてはつらいものだと思う。
- ・ 小論文は書き方よりも、知識を取り入れてそれに対する考えを持つことの方が大切だということが分かった。
- ・ 今まで受験科目の一つとしてしか考えていなかった小論文がどういうものか知ることができた。小論文は自分の考えを知り、自分を知ることにもなると思う。もっと広い視野を持って考えるようになりたい。

4 研究のまとめ

(1) 研究の成果

上條春夫氏は、「講義中心・実作中心の授業は、もちろん必要である。しかし(中略)作文の得意な子どもたちは上達しても、作文の苦手な子どもたちは上達をしないことが多い。講義中心は子どもたちの書く意欲を引き出せず、実作中心は(文題の提示の仕方を書く意欲は引き出せても)書く技術を子ども任せにしがちだからである。

(中略)書く内容と書く技術がセットになったワークシートのような教材を開発し、子どもの意欲をかき立てつつ書く技術を身につけさせるということだ。」(「メールマガジン『実践!作文研究』第138号,平成14年9月29日」と述べている。

今回の研究は、上條氏の言うワークシートを段階的かつ効果的に取り入れるというものであったが、次のような成果を得ることができた。

ア 段階を踏んだワークシートを使うことで、生徒たちに小論文に対する明確な意識づけができた。

イ 小論文を書く前段階の大切なものとしての新聞や読書などから得た知識を、意識的に求めることが必要であることに気づかせることができた。

ウ 小論文を書く指導の中で、人に伝えることの難しさ、大切さに気づかせることができたと同時に、自己を高めるものでもあることに気づかせることができた。

(2) 今後の課題

「つねから他の者の言うことに注意をして、いいことばといやなことばとを聞きわけの力をもたなければならない。ことに、自分で、物を言うばあいには、せめては、作文のときくらいのていどに、どう言うべきかを考えてかからなければならない。ことばは、私たちの選択によるほかに、将来よくなってゆく道はないのである。」と、柳田国男は「少年と国語」の中で述べている。今回の研究では、ワークシートを使いながら段階的

に書く指導を行ったわけであるが、今後はこの深まりを土台にして、次の点の研究を深めていきたいと考える。

ア ワークシート完成編（下記参照）を使った、自分の体験に照らしたり、想像力を働かせたりして具体的に考えさせる指導のより効果的な在り方。

具体的には、進路を見据えつつ、学習・文化活動、スポーツ、ボランティア活動などの諸体験を小論文としてまとめることが考えられる。

ワークシート 小論文完成編 2

第四部 定義

ルール 2 1

定義とは、ある言葉の持っている多くの概念 (= 意味) の中から、幾つかが選び出され、固定されたものである。

ルール 2 2

通常、定義は「XとはYである」の文体で示される。また、辞書のような文体で示すこともできる。

例：「定義」という言葉の辞書的定義は以下のようにになっている

ルール 2 3

ひとつの論文では、原則的に、ひとつの言葉にはひとつの定義しか与えられない。もしも論文の途中で定義を変更したいときには、どのように変更するかを明示し、説明しなければならない。つまり、定義を変更したことを示すことなく、定義変更してはならない。

ルール 2 4

定義の仕方は論文次第である。自分の論文にふさわしく、言葉の定義をまず決定しておかなければ、論文は書けない。よって重要な言葉をはじめて使用するときには、その言葉の明確な定義を示しておく必要がある。

演習 4 - 1

「蜜柑(みかん)」という言葉をもとに、例にならって下の 1 ~ 8 の基準で、自分なりに定義しなさい。

例：

・植物を扱う論文の場合

蜜柑とは、暖地に栽培される、ミカン科の常緑広葉樹である。

・文学を扱う論文の場合

蜜柑とは、ヨーロッパの文学においては、南方の地中海世界を象徴する、イメージ豊かな果物である。

1．季節感を扱う論文の場合

2．物理的な主題の論文の場合

3．農業を扱う論文の場合

4．芸術を扱う論文の場合

イ 教養を身に付けていく上で必要な必読図書の選定。

小論文を書く前段階の大切なものとしての新聞や読書などから得た知識を，意識的に求めることが必要であることに気づかせることはできた。今後はさらに，生徒が自己の内面と対話しながら思考を深めていく力を付けるために，読書内容を充実させることが大切である。そこで，学校独自でステレオタイプではない，分野別に生徒に読ませたい必読図書を選定して，生徒の読書意欲を喚起していく必要がある。

ウ 学問的な基礎知識や理解力に基づく創造力，独創性を培うための指導の在り方。

参 考 文 献

- | | |
|--|---------------|
| 「高等学校学習指導要領解説 国語篇」 | 平成11年12月 文部省 |
| 「高等学校新学習指導要領の解説 国語篇」 | 平成12年 7月 学事出版 |
| 「ナ氏の小論文&総合的な学習の時間 (http://www2.ocn.ne.jp/~shouron/)」 | |
| 「『来て見てやってん，読む・書く・話す』実態・実践資料集」 | |
| 平成14年 3月 宮崎大宮高校地区小・中・高等学校連携推進事業 | |